

令和 7 年度

授業改善推進プラン

～学力向上を図るための全体計画～

大田区立中富小学校

令和7年度 授業改善推進プラン

～学力向上を図るための全体計画～

大田区立中富小学校

- 教育基本法
- 学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
- 大田区教育委員会教育目標

学校教育目標

- 美しい心の子ども（徳）
- よく考え進んで行う子ども（知）
- 健康な子ども（体）

- 学校・地域の実態
- 保護者の期待や願い
- 地域の期待や願い
- 育てたい児童像

各教科の指導の重点

問題解決的・体験的な学習を進め、自主的・自発的な学習をしたり、すすんで読書活動をしたりするなどの意欲や態度を育成する。
学ぶことの楽しさを実感させるとともに豊かな創造力や柔軟な思考力を育てる。

中富小学校の教育像

☆みんなが幸せになる学校

- ・児童が「わかる・できる・楽しい・認められる」を実感できる学校
- ・教師が使命感に燃え働く喜びを感じる学校
- ・保護者が信頼し共に子供を育成していく学校
- ・地域が信頼し共に伝統を作る学校

道徳教育の指導の重点

全教育活動を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、道徳的な心情や判断力と実践意欲・態度を育てる。情操豊かで道徳性のある子供を育てる。

総合的な学習の時間指導の重点

自ら課題を設定し、探究的な学習活動を通して自らの生き方について考えさせる。
既習事項やICT機器を活用し、国際化・情報化社会をたくましく生きる力を育てる。

学校経営方針

（学力向上に関する部分抜粋、要約）

主体的な学習に取り組む児童の育成

- 基礎的・基本的な内容の定着に向けて基礎・基本を押さえた授業、習熟度別少人数算数指導補習教室の充実、教科担任制による専門性の高い教科指導、ステップ学習の確実な指導、読書活動、家庭学習の習慣化
- 主体的・対話的で深い学びを目指す授業思考力・判断力・表現力の育成、ICT活用、ESDの視点に立った学習指導、学習技能の育成、プログラミング教育

教員の指導力向上

○研究、研修、OJTの実施、指導方法の共有化

特別活動の指導の重点

望ましい集団活動の体験を豊かにする。
学校行事は協力や思いやり、成就感を味わわせる等、心の教育を充実させる大切な活動として位置付ける。また、表現力や創造力を発揮させる機会とする。

外国語活動の指導の重点

英語を中心に、児童のコミュニケーション能力が高まるよう、系統的に指導する。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価・評定の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携工夫
○毎週火・金曜日に朝学習の時間を設定し計画的に基礎学力の定着を図る。 ○木曜日の放課後に補習教室「寺子屋」を設定し基礎学習の徹底を図る。 ○5・6年生に外国語、3・4年生に外国語活動、1・2年生に大田区外国語活動を位置付け、英語に慣れ親しむ時間を確保する。 ○各学年の週の授業時数を十分に確保し、基礎学力の定着を図る。	○算数学習で少人数指導を全学年に導入し個に応じた指導の充実を図る。また木曜日に補習教室（寺子屋中富）を行う。 ○体験的な活動や本物に触れる機会を大切に、児童の興味・関心を重視した教育活動を展開する。 ○言語活動を意図的、継続的に授業に取り入れ思考・判断・表現の各能力の伸長を図る。 ○ICT教育の充実を図り、タブレットを使用したプログラミング学習を全学年で実施する。	○各教科の年間指導計画に評価規準と評価計画を作成し、指導に活用する。 ○形成的な評価を重視して、児童の学習意欲が持続するように工夫していく。 ○評価に当たっては、各教科の評価規準による絶対評価と日常の評価の累積を総合的に評価して決定する。	○校内研究では、「地域と共に生きる創造的な児童の育成」を研究主題として、「おわたの未来づくり」に取り組む。その際、各教科と関連させながら知識・技能の定着を図っていく。 ○教員としての資質向上を図るため計画的に研修会を設定する。内容は「特別支援教育研修」「ICTの効果的な活用のための研修」等を行う。	○地域教育連絡協議会による学校関係者評価に基づき、授業を工夫改善し次年度の教育課程に反映させる。 ○学校支援地域本部「スクールサポートなかとみ」の協力を得て、ゲストティーチャーを活用し、各教科、行事等に地域の人材を活用し、授業の質を高めていく。

【 国 語 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・全校で言葉の学習に力を入れたことにより、学年による差はあるが、言葉や漢字に興味をもてるようになり、知識・技能が付いてきている。 ・音読練習に継続して取り組んだことにより、間違えずに音読する力が付いた。	・語彙が乏しく、文章の内容を正しく読み取れない。 ・指定された条件に沿って文章を書くことを苦手としている。特に段落について理解している児童が少なく、段落を意識した文章を書くことが難しい。 ・自分の考えをまとめたり、表現したりする力が乏しい。 ・習熟度の個人差が大きい。

②令和7年度「大田区学習効果測定」調査結果分析

○「知識および技能」では、4年生・5年生・6年生のいずれの学年においても、平均正答率が目標値より低い。 ○「思考・判断・表現」は、4年生・5年生・6年生のいずれの学年においても、平均正答率が目標値より低い。 ○4年生は、「読むこと」において目標値をわずかに上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、目標値を大きく下回っている。5年生は、「話すこと・聞くこと」で目標値に近い値を示している。「我が国の言語文化に関する事項」では、目標値を大きく下回っている。6年生は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において目標値に近い値を示している。「読むこと」では、目標値を大きく下回っている。

③今年度の授業改善プランとして

改善のポイント	・知識・技能…表現や理解のために必要な言葉のきまりや、前年度までの既習漢字を確実に身に付けさせる。そのために、ICT機器やICT教材等を利用する。読む力の向上に繋げるため、音読練習に取り組ませる。国語辞典、漢字辞典を活用する能力を伸ばすため、進んで活用する。 ・話すこと・聞くこと…大事なことを落とさずに聞き、聞いた内容を生かして、相手意識をもって分かりやすく話し合うことができるように、「話す・聞く」の活動を多く取り入れるようにする。 ・書くこと…表現力を伸ばすために、書く活動の場を増やしたり、書いたものを発表し合って感想や意見などを交流する活動を取り入れたりする。また、短作文を繰り返し書かせたり、条件や字数を指定して書かせたり、段落を意識して書かせたりする活動も取り入れる ・読むこと…読書指導では、全校読書の時間を活用したり、司書教諭を中心に学校図書館利用の充実を図ったりしながら、引き続き読書に対する意欲を高める。長文の流暢な読みに繋がるように、音読練習を継続して行う。説明文では、形式段落を使って文章の構成を考える等の学習を通し、文章の内容を的確に押さえて読むことができるようにする。		
	1 年	2 年	3 年
改善策	・言葉遊びを楽しませながら語彙を増やしていく。 ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを聞き落とさないように少人数で話し合う活動を多くもたせる。 ・物語を聞いたり読んだりして内容や感想を伝え合ったり、演じたりさせる。 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話したり、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読させたりする。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。	・主語と述語との関係に気付かせる。 ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使わせる。 ・友達が書いた文章に感想をもち、よいところを見付けさせる。 ・内容のまとまりが分かるような文章を書かせ、感想を伝え合う活動をする。 ・点画の書き方や文字の形に注意しながら筆順に従って丁寧に書かせる。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。	・どの領域についても話したり聞いたりする活動を多く取り入れる。 ・主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係について理解させる。 ・日常生活の中で決めた話題について伝え合うために必要な事柄を比較し、選ばせる。 ・日常的に資料を読み取って気付いたことを文章でまとめたり、指定された長さで文章を書かせたりする学習を取り入れる。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。
	4 年	5 年	6 年
	・指示語と接続語の役割、段落の役割について理解させる。 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、相手を考えて伝えたいことを手紙に書く活動をさせる。 ・互いの考えを伝え、グループや学級全体で相手の意見を聞き、聞いたことをもとに話し合う活動を取り入れる。 ・文章における敬体と常体の違いに注意しながら書かせる。 ・辞典や事典の使い方に習熟させる。 ・大切なことを落とさずにメモを取りながら聞く活動を取り入れる。	・事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させる。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分や相手の文章のよいところを見付けさせる。 ・相手の立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う活動を取り入れる。 ・よく使われる敬語を理解させ、生活の中で使わせていく。 ・資料を正しく読み取り、適切にまとめたり書き直したりする活動を取り入れる。	・話し手の目的や自分の意図に応じて話の内容を捉えながら聞く。話し手の考えと比較し、自分の考えをまとめて話すようにさせる。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を伝え合うことで共有し、考えを広げる。 ・思考に関わる語句を、話や文章の中でたくさん使わせ、語彙を豊かにさせる。 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係について理解させる。

◇改善ポイント

①音読を行わせる。②答えの明確な読み取り問題を出し、確認する。

【 社 会 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・デジタル教材を使用することで、児童の興味・関心を引き出すことができた。 ・ICT を活用して学習に必要な情報を探し出すことができるようになってきた。	・問題を読み解こうという意欲が不足している。 ・どの学年も、基本的な知識が身につけていない。 地図記号、方位、地名、社会科的な用語等を覚えていない児童が多い。 ・グラフや資料の読み取り方・考察する力が身に付いていない。

②令和7年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

○4年生は、正答率が区平均を下回っている。特に、『地域や市の様子』『知識・技能』の分野において、数値が大きく下回っている。

○5年生は、正答率が区平均を下回っている。特に、『生活環境を支える活動』『知識・技能』の分野において、数値が大きく下回っている。

○6年生は、正答率が区平均を下回っている。特に、『工業生産』の分野において、数値が大きく下回っている。

○標準スコアと比較して、全ての学年が50のラインを下回っているが、5年『特色ある地域の様子』6年『国土の自然環境の国民生活』など、平均を上回っている分野もある。

③今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	- 単元の初めには、導入で資料の提示の仕方を工夫して課題設定をし、児童が主体的に取り組めるような学習の流れをつくる。また、基本的な事項の指導を徹底する。 - 学習したことを活用する力を身に付けさせるために、見学や調べたことのまとめ方を指導するとともに、学習の始めに、前時の復習テストや単元途中に小テストを行うなどして繰り返し暗記させる。 - 体験的な学習活動を多く取り入れ、興味をもって学習に取り組めるようにする。 - プリント学習・タブレット学習を活用して、基礎基本を定着できるよう、繰り返し学習させ、学力向上につなげられるようにする。		
	1年	2年	3年
改善策			- スーパーマーケットや消防署見学など、体験的な見学活動を通して、自分の生活と結び付けながら学習させる。 - 地図を読み取る活動を多く取り入れ、地図記号・方位を確実に身に付させる。 - 体験的な活動を通して、昔の暮らしと今の暮らしの違いについて考えまとめさせる。 - ICTを活用して、分かりやすく学習を進める。
	4年	5年	6年
	- 校内や地域の探索等、体験的学習を通して、安全（交通・火災）について地域の人がどのような活動をしているか知り、自分たちに何ができるのか考えさせる。 47都道府県の名称と位置に興味をもたせ確実に暗記させる。 - 都の様子について、自分の生活している場所と比較しながら理解できるようにする。 - ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。	- 国土の環境と人々の生活や産業との関連を、資料を基に考え、まとめられるように、資料の読み方、まとめ方を丁寧に指導する。 - 様々な産業が、多くの分業から成り立っていることを、見学や体験活動を通して気付かせる。 - 授業中、地図・地形図・地球儀等を繰り返し使って、地名や地形、海流、海洋等々を覚えさせる。 - ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。	- 歴史学習では、人物学習に焦点を当て、その人物の考え・行動について自分なりの考えをもてるように、意見交換や発表を行わせる。 - 図や年表等の資料の読み取り方を指導する。また読み取った資料のまとめ方を丁寧に指導する。 - 世界の中での我が国の役割を考えられるよう、意見交換や発表を行わせる。 - ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。

◇中富小授業改善ポイント（NJKP）

①基本的な用語や概念を確認する。②地図帳を使わせる。

【 算 数 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・タブレット端末を使用することで、主体的に学習に取り組もうとする児童が増えた。また、図形の作図や表の読み取りなど苦手意識をもった児童がタブレット上で操作することで理解を深めることができた。 ・低・中・高の発達段階に応じてノート指導をすることで、丁寧に書ける児童が増えてきている。 ・高学年においては、児童の工夫したノートを掲示することで、授業後の中での気づきや自分の考え方を図やイラストなどで表そうとする児童が増えてきた。 ・寺子屋中富を中心とした補習学習を行った結果、基礎基本が定着する土壌が出来つつある。	・文章題及び設問内容の読み取りが難しい児童がいる。 ・身近にあるものの長さや面積やかさ、重さなどの量感が身に付いていない児童が多い。 ・図形の定義を正確に覚え、その図形がもつ性質から、分けることを論理的に導き出すことができない。 ・学年が上がるにつれ、思考力の個人差が大きくなっている。 ・考えたことを自分の言葉や式や図で表現することが難しい児童が多い。 ・筆算をしないで、答えを出そうとする児童が多い。 ・筆算をしても、「繰り上がり」「繰り下がり」を書かず間違える児童も多い。

② 令和7年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

● 4年生は、正答率が区平均や目標値を大きく下回っている。とりわけ「数と計算」「図形」の値が低い。 ● 5年生は、正解率が区平均や目標値を大きく下回っている。全体的に値が低い。とりわけ「図形」の値が低い。 ● 6年生は、正答率が区平均を下まわっている。全体的に値が低く、中でも「データの活用」「思考、判断、表現」の値が特に低い。
--

③今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	・授業の初めに前時及び前学年の振り返りを必ず行い、学習の習熟を図る。 ◎学年に応じた四則計算練習プリントを朝学習の時間や授業の導入に実施し、習得を図る。 ・ノートには「式・自分の考え（図）・答え」を書く。特に立式の際に図やイラストをノートに書く時間をとり、自分の考え方を視覚化させる。 ・関心・意欲を引き出すため、具体物を提示するなどして授業全般を工夫する。また、日常生活の中で算数の学習が活用されている場面などを紹介したり掲示したりし、算数をより身近なものとして捉えさせようとする。 ◎授業の初めにめあてを確認し、単元の終末には、めあてに対し、「①わかったこと・できるようになったこと」「②友達の考えでよいと思ったこと」「③疑問・質問」「④もっと知りたいこと・やってみたいこと」の4点を意識して学習感想を書くように指導する。 ◎児童の実態に合わせた教材を用意する。特に、支援を必要とする児童には、「お助けカード」や「穴埋め問題」のように、補助となるような教材を用意し、児童の「やってみたい」「これならできそう」と思えるようにする。		
	1 年	2 年	3 年
	・文章問題の場面の理解ができるように、絵や図を提示する。 ・ブロックや数え棒などの具体物を操作し、演算決定につなげる。 ・文章題を解くときには、文章の中のたし算、ひき算の言葉に注目させたり、数値と場面にしるしをつけたりして、意識をさせる。 ・10の分解と合成を繰り返し練習し、正しく計算できるようにする。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすい授業を展開する。 ・「楽しい」「やってみたい」と思えるような問題を用意して学びに向かう力へと結び付けさせる。	・繰り上がり繰り下がりのある加法と減法、かけ算が確実にできるように繰り返し計算練習に取り組ませる。 ・数カードを使い、繰り上がり・繰り下がりの仕組みを説明させる。 ・長さ、量、時計などの学習では、具体物を使った体験活動を取り入れる。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすい授業を展開する。 ・文章題を解くときには、文章の中のたし算、ひき算の言葉に注目させ、操作的な活動を通して視覚的に確かめさせる。 ・「視覚優位」「聴覚優位」それぞれに合わせた教材を用意する。	・繰り上がり、繰り下がりやかけ算、わり算などの基本的な技能を身に付けるため、授業の始めに計算練習に取り組む。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章題を解くときには、文章の中の演算決定の根拠となる言葉に注目させたり、数値と場面にしるしをつけたりして、意識をさせる。 ・何が問われているのかを捉える力をつけさせるために、問題文を音読したり、大事なところに線を引いたりして確かめさせる。
	4 年	5 年	6 年
	・小数、分数の四則計算や数直線に表すことや、四捨五入など基本的な技能を身に付けるため、授業内で十分に時間をとり、繰り返し練習を行う。 ・計算演習プリント、ドリルパークに取り組む。 ・授業の導入で既習事項を振り返り、本時の内容理解につなげられるようにする。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かす活動をしたことを通して技能を身につけさせる。 ・児童の実態に応じて、前学年から振り返られるような教材を用意して理解を深めさせる。	・小数や分数の計算や百分率の問題を正確にできるように繰り返し練習する。 ・図形の定義や性質（内角の和、平行四辺形や複合図形の求積など）を繰り返し、練習し確実な習熟をはかる。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章問題では、二重数直線などの図に表すことで、数量関係を正確にとらえて立式できるようにする。 ・公式や関係図など、ヒントになるようなカードを用意し、児童自ら取り組めるような支援をする。	・四則計算や分数の約分、通分や小数を分数へ変換するなどの基本的な技能を身に付けるため、授業内で十分に時間をとり、繰り返し練習を行う。 ・円や立方体の学習では半具体物を操作させながら、算数的活動を多く経験させる。 ・I C Tを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章問題では、二重数直線などの図に表すことで、数量関係を正確にとらえて立式できるようにする。 ・つまづいている単元まで学年をさかのぼり、復習等を繰り返し知識の定着を図る。

◇中富小授業改善ポイント（N J K P）

①前時の復習を授業の導入で行い、定着度を確認する。②作図や操作の授業で、問題や考えを教師が確認する。

【 理 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・ I C Tを活用することで、観察が難しいものや不十分だった実験を視覚的に確認できるようになり、学習の意欲付けにつながった。 ・ 結果をもとにしながら考えを書く力が、少しずつ身に付いてきた。	・ 基礎的な学力を向上させるため、課題を明確にして、一人一人が主体的に実験・観察を行えるようにする。(一人一つの実験観察用具準備) ・ 実験・観察で得た結果から考察する際、自分の言葉でまとめたり、それを知識として定着したりすることができない児童が多い。

②令和7年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

- 全学年で「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに正答率が目標値を下回っている。
 ○領域においては、どの学年も「思考・判断・表現」の正答率が下回り、特に5年生が低い。
 ○解答形式においては、記述式の正答率が、4・5・6年生共に、特に低くなっている。

③今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	・ 日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・ 学習過程を大切にした指導をする。問題に対して予想や仮説を立て、それを確かめる実験の方法を考案し、結果をまとめ、結果から考えられることを考察する活動を徹底する。予想や考察場面では、I C Tを活用し、それぞれの考えを共有し、様々な考えがあることを理解したり、同じ考えが多いことを知ったりしながら、実験に取り組むようにする。また、結果から考えられることを自分の言葉で考察する力を養っていく。 ・ 理科用語の定着をさらに図るために、実験用具の名称や用途を実験前に理解させ、科学用語の意味を丁寧に指導し、それらを使って考えを書くことができるようにする。 ・ 植物や動物の成長を季節ごとに捉えることができるように、年間指導計画を基に、活動できるようにする。観察が難しいものについては、I C Tを十分活用するようにする。3学期に一年間の成長をまとめる時間を設け、知識の定着を図っていく。 ・ 身に付けた知識を忘れることのないよう、様々な教材を活用して繰り返し学習できるようにする。 ・ 学習単元以外でも、日常的に観察を促す機会を増やしたり、既習事項を活用する機会を設けたりする。		
	1 年	2 年	3 年
改 善 策			・ 飼育栽培活動では、観察や記録する活動はI C Tを活用し、継続的に行い、知識が定着するようにまとめる。 ・ 飼育栽培活動は、児童一人一人に配布し、興味・関心をもち観察するようにする。 ・ 多くの観察や実験を通して比較する力を身に付けさせる。 ・ 実験用具の名称や用途を事前に理解させ、科学用語の意味を丁寧に指導し、それらを使って考えを書くことができるようにする。
	4 年	5 年	6 年
	・ 実生活と学んだことを関連付けられるよう導入に工夫して指導する。 ・ 興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・ 関係付けの力が身に付くよう実験や観察の際に、仮説や予想、結果や結論といった過程を丁寧に指導する。(板書用カード使用) ・ 観察や記録をする際は、I C T教材を効果的に活用する。 ・ 結果から考えられることを検討する際には、一人で考える時間とグループで意見を出し合う時間の両方を設け、児童自らが考えた言葉でまとめられるようにして、思考力を養う。 ・ 「星や月」の単元では、I C T機器や体育館で移動プラネタリウムを活用し、視覚的に学習できるようにする。	・ 日常生活の中から課題を見付けていけるような学習計画を立てられるようにする。 ・ 予想をもとに、条件を制御した観察や実験ができるように①課題②予想(理由)③実験④考察⑤まとめという学習過程で指導する。(板書用カード使用) ・ 興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・ 全員が課題把握を明確にできるよう導入に工夫し、問題解決への意欲が高まるよう展開する。 ・ 科学用語を使ってまとめの文を書くようにし、定着を図る。 ・ 観察や実験の結果を表やグラフ・図に記録し、整理して考える習慣を身に付けさせる。 ・ 結果や記録を分かりやすくするためにI C T教材を積極的に活用する。	・ 日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・ 年間指導計画に基づき、動植物の実験や観察を体験できるようにする。 ・ 興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・ 全員が課題把握を明確にできるよう導入に工夫し、問題解決への意欲が高まるよう展開する。 ・ 単元の終わりにある教科書の「活用」問題に取り組み、実生活で生かせるよう思考力や説明する力を身につける。 ・ 科学用語を使ってまとめの文を書くようにし、定着を図る。 ・ 結果や記録を分かりやすくするためにI C T教材を積極的に活用する。 ・ 「星や月」の単元では、I C T機器や体育館で移動プラネタリウムを活用し、視覚的に学習できるようにする。

◇中富小授業改善ポイント（N J K P）

①基本的な用語や概念を確認する。②実験の授業を大切にし、明らかになった概念を短くノートにまとめさせる。

【 生 活 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・異学年交流の機会を設けたことにより、下級生を思いやる気持ちを育てることができた。 ・近隣の幼稚園・保育園児に手紙を渡すなどの交流ができたことにより、4月からの低学年としての交流活動をスムーズに行うことができた。 ・学校や地域にある公園等を有効的に活用し、身近な自然と触れ合うことができた。	・ねらいに沿った活動を行っているが、まだ表現力や思考力が十分育っていない。 ・自分の生活を振り返ることはできるが、自分なりの気づきがあり見られない。 ・気付いたり感じたりしたことを十分に表現できていない。

②今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の ト 改 善 策	・異学年との活動や体験学習を取り入れて、体験と学びがつながるように授業構成を見直していくようにする。 ・学校探検や町探検などの活動を通して、学校や自分たちの地域の特徴やよさに目を向けさせるようにする。 ・活動や体験を通して、子供同士で気づきや思ったことを自分の言葉で表現し、伝え合う時間を取り入れるようにする。 ・ICT機器（タブレット端末）を学習活動で、児童が効果的に活用していくようにする。 （観察、飼育栽培過程の記録を写真に残し、データを蓄積し変化をみるなど）	
	1 年	2 年
	・異学年との交流活動を通して、相手の立場に立って考える姿勢を育てる。 ・「昔の遊び」などの活動では、実際に昔遊びや体験を通して、地域を支えてきた人々の良さに気付くことができるようにする。 ・家庭生活に関わる活動を通して、家族のことや自分でできることについて考えさせるようにする。 ・自然に親しみながら、観察のポイントを提示し、活動を通じて気付いたことや思ったことを伝え、実生活につなげていくようにする。	・1年生とのかかわりを通して、2年生としての自覚をもたせる。 ・町探検を計画し、地域にある身近な自然や施設に目を向けることで自分たちの地域の特徴や良さに気付くことができるようにする。 ・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができるようにする。 ・自然に親しみながら、観察のポイントを提示し、活動を通じて気付いたことや思ったことを伝え、実生活につなげていくようにする。

【 家 庭 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・タブレットを活用し、作業動画を視聴しながら学ぶことができ、学習の個別化が図れた。 ・布を用いた制作では、個人の技能に応じて課題を選択できるようにし、技能を上達させることができた。 ・学習したことを家庭でも実践させる為にタブレット端末を活用し、「家庭での自分の仕事」を継続的に行うことにつながった。	・手縫いやミシン縫いの技能が身に付けられるよう、経験や個人差に応じた指導を行うことが課題である。 ・制作技能や理解力に応じた学習の個別化が必要である。 ・家庭科で身に付けた力を家庭や地域、社会で実践できる機会を設けたい。

③ 今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の ト 改 善 策	・手縫いやミシン縫いなどの制作の基本的な技能を習得できるよう、タブレット端末で動画教材を作成して学習の個別化を図る。 ・家庭でも学習が進めるよう、WEB教材やICT機器をさらに活用していく。 ・学習の成果をICT機器を使い、学級で共有できるようにしていく。 ・授業で学んだことを生活の中で生かしたり、生活の改善を図ったりできるようにする。	
	5 年	6 年
	・動画教材を活用し、効果的に学習を進める。 ・自分と家族の生活を振り返らせることで、家族や家庭生活の大切さに気付かせ、協力しようという意欲をもたせる。 ・ICT機器を活用し、保護者の協力を得てより一層、家庭での実践を奨励する。 ・Class Roomを活用し、ハイブリットな授業を展開する。	・動画教材を活用し、効果的に学習を進める。 ・5年生の学習でできるようになったことを振り返ることで、自分や友達の成長を共有し、知識や技能を高めていこうとする意欲をもたせる。 ・ICT機器を活用し調理動画を提供するなど、家庭での調理実践ができるように環境を整える。 ・学習のまとめでICT機器を利用して、学んだことが身についたことを実感できるようにする。

【 音 楽 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・ 学び方のレパートリーを増やすことで、粘り強く練習に取り組ませることができた。リコーダーや鍵盤ハーモニカの技能力向上が見られた。 ・ 体を動かす活動を多く取り入れて身体と音楽の関わりを強めた。 ・ 音楽の要素と曲想との関わりを理解しながら、活動につなげることができた。	・ 教材に適した学び方と学び方の系統性を意識した授業計画をたてたい。 ・ 教材同士の関連をはかり題材構成を大切に授業展開を考えたい。

②今年度の授業改善プランとして

音楽科における学習状況	○知識・技能 ・ 電子黒板や掲示物を工夫することで、曲想と音楽の構造などの関わりや身近な音符、休符、記号や用語について理解している。 ・ 音楽づくりやリズム活動といった常時活動や今月の歌を授業初めに行うことで体系的・継続的に学習に取り組んでいる。 ○思考力・判断力・表現力 ・ 音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取るための学習を重点的に取り組んでいる。また知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように表現するかについて思いや意図をもてるようにタブレットを使用し学習している。 ○主体的に学習に取り組む能力 ・ 常時活動を取り入れることで、自信をもって活動できる児童が増え、他の音楽の学習においても主体的に取り組んでいる。 ・ タブレットを使用することで、自分の活動を振り返りめあてをもって活動できたり、友達の意見や考えを共有したりして学習に進んで取り組んでいる。		
	1 年	2 年	3 年
改善策	・ 鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材を活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。	・ 鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材を活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。	・ リコーダーや鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。
	4 年	5 年	6 年
	・ リコーダーは、一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱や速度など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。	・ リコーダーや合奏は、一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギング、様々な楽器の奏法などを徹底させる。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱や速度など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的に学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 ・ グループ活動が効果的な題材を計画し、協働的な学びを行う。	・ リコーダーや合奏は一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギング、様々な楽器の奏法などを徹底させる。 ・ グループ活動が効果的な題材を計画し、協働的な学びを行う。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。

【 図画工作科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
・素材に良さに着目して、楽しみながら制作を進めることができた。作品展では他の児童の作品を進んで鑑賞する姿が見られた。 ・全校児童で共同制作を行うことができ、一つの作品をみんなで作り上げる体験ができた。	・細かい作業に苦手意識があり、指先などをうまく使えない児童がいるため、支援が必要である。 ・持ち物を忘れ、用意できない児童がいる。 ・制作経験の個人差や進度差が大きく、支援する必要がある。 ・ICT機器を使用すると単なる模倣になってしまうことがあり、適切な場面での使用法を考える必要がある。

② 今年度の授業改善プランとして

図画工作科における学習状況	○知識・技能 新しい材料や用具を使うことに意欲的である。教科書や電子黒板で用具の使い方を学んだり、復習したりすると正しい使い方ができ、より自分の思いを作品に込めることができるようになる。 ○思考力・判断力・表現力 好きなもの、興味のあることを発想の起点にして、自分の表したいものが明確である児童が多い。表したいものを自分で決めることができずに悩んでいる児童もいる。 ○主体的に学習に取り組む能力 意欲的に取り組む児童が多い。一方で興味をもてず、題材のめあてに合わない活動を行う児童がいる。興味をもてるように、タブレットを効果的に活用したり、作ってみたいと思う作品を提示したりして、導入を工夫する。		
	1 年	2 年	3 年
	・用具（のり、はさみ、ボンド、絵の具など）の扱い方や技能を身に付けながら、楽しく活動できる季節にあった多様な題材を設定する。 ・制作過程動画を提示し、学習内容が伝わる工夫をする。 ・友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。	・用具（カッターやホチキスなど）の正しい使い方を学ばせるとともに、身近な材料（紙や木片など）を使って楽しく活動できる多様な題材を設定する。 ・制作過程動画を提示し、学習内容が伝わる工夫をする ・友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。	・様々な材料を扱う題材を設定する。（段ボール、布など） ・用具を使って、安全に楽しく活動できるように指導する。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・制作過程動画を提示し、学習内容が伝わる工夫をする ・学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。
	4 年	5 年	6 年
	・様々な材料を扱う題材を設定する。（木材や段ボール、布など） ・絵の具の正しい使い方（混色）や絵の描き方について指導する。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように声かけ、指導を行う。 ・制作過程動画を提示し、学習内容が伝わる工夫をする	・用具（カッター、糸鋸など）の正しい使い方を学び、基礎的な技能の定着を図る。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・色や形から感じたイメージを取り入れたり、友達と交流をしたりしながら、自分が納得いくまで粘り強く制作することの大切さに気付かせる。 ・動画編集ソフトを活用し、制作した動画を編集し公開できるようにする。 ・プログラミングを体験し、自分で描いた絵が自分の思うように動くというプログラムを行う。	・絵の具の正しい使い方（混色）や絵の描き方について繰り返し指導する。 ・既習の材料や用具の経験を活かして、その中から適切なものを選びながら表し方を深めさせる。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定し、自分の活動に生かせるように言葉をかけ、指導を行う。 ・動画編集ソフトを活用し、制作した動画を編集し公開できるようにする。 ・プログラミングを体験し、自分で描いた絵が自分の思うように動くというプログラムを行う。
	改善策		

【 体 育 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
○体力テストの結果の分析をもとに、各種目の記録向上に向けた指導を行った。特に持久力に関しては、朝スポーツの時間などを活用し、継続的に指導を行ったことで、児童の運動意欲の向上も感じられた。	●教師の示範や友達の優れた動きに関心をもち、自分の動きにも生かそうとする姿勢が身に付いていない児童が多い。 ●自己の課題を見つけ、解決のための手立てを考えたり、自分に合った場を選択したりする思考力が十分に育っていない。 ●運動に苦手意識があり、粘り強く課題に取り組めずに諦めてしまう児童が多い。

②今年度の授業改善プランとして

指導 の 工 夫	○「知識・技能」に向けた指導の工夫 ・豊かなスポーツライフを実現するための課題解決的な学習を重視する。 ・自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付けられるよう、ルールを工夫したり活動を選択したりできるようにする。 ・学期に一回(保健)体育学習を振り返る時間を設定し、考えを深め、新たな課題を見つけることができるようにする。 ・学習カードを単元によって作成し、めあてに則したふりかえりを書かせることで、運動的な知識を養う。 ・タブレットで運動している姿を撮影し、自分の動きを客観的にみられるようにするとともに、映像をもとに課題やよい動きを友達とも見付けられるようにする。 ・インターネット動画「NHK for school」などを活用して正しい運動技能の育成を図る。 ○「思考・判断・表現」に向けた指導の工夫 ・仲間と協力することで達成できる課題を設定し、児童が対話を繰り返しながら思考を深めていく学びの過程を意識した授業展開をする。 ・よい動き、よい声かけを取り上げ、児童が意識するポイントを明確にする。 ・運動領域に応じた場を設定し、児童が解決のための手立てを考えたり、自分に合った場を選択したりすることができるようにする。 ○「主体的に学習に取り組む態度」に向けた指導の工夫 ・体づくり運動を日々の運動(遊び)を支える重要な機会と捉え、様々な教具を活用した指導を通して楽しさや喜びを味わわせる。 ・朝スポーツを通して体力を向上させるとともに、運動の楽しさや喜びに気付くことができるようにする。 ・運動の場を複数用意し、児童が課題に応じた場を自ら選択して運動に取り組めるようにする。		
	1 年	2 年	3 年
改 善 策	○楽しく運動しながら、その結果として、基本的な動きが身に付けられるようにする。 ○手軽な運動遊びの例を教員間で共有する。 ○運動遊びを通して感じたことを他者に伝えられるようにする。 ○誰とでも仲よく運動できる態度を養うためのルール作りやグループ作りを工夫する。 ○用具や場を安全に使うための約束事を決めておく。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。	○楽しく運動しながら、その結果として、基本的な動きが身に付けられるようにする。 ○手軽な運動遊びの例を教員間で共有する。 ○運動遊びを通して感じたことを他者に伝えられるようにする。 ○誰とでも仲よく運動できる態度を養うためのルール作りやグループ作りを工夫する。 ○用具や場を安全に使うための約束事を決めておく。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。	○児童が楽しく主体的に運動が行えるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。 ○課題解決的な学習の中で、自己の考えを伝える活動を重視する。 ○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。 ○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。 ○タブレットを活用して、自分たちの動きを振り返る。
	4 年	5 年	6 年
	○児童が楽しく主体的に運動が行えるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。 ○課題解決的な学習の中で、自己の考えを伝える活動を重視する。 ○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。 ○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。 ○タブレットを活用して、自分たちの動きを振り返る。	○自己やチームの目標達成のために、児童が主体的に学習できるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。 ○課題解決的な学習の中で、自己や仲間の考えを伝える活動を重視する。 ○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。 ○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。 ○タブレットを活用して、自分たちの動きを振り返る。 ○教科担任制を生かし、運動技能の向上を図る。	○自己やチームの目標達成のために、児童が主体的に学習できるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。 ○課題解決的な学習の中で、自己や仲間の考えを伝える活動を重視する。 ○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。 ○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。 ○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。 ○タブレットを活用して、自分たちの動きを振り返る。 ○教科担任制を生かし、運動技能の向上を図る。

【 外 国 語 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
児童が外国語に触れる機会が多くなったことで、外国語に対する興味関心が高まっている姿がみられる。デジタル教科書やALTの発音から正しい発音の仕方を進んで模倣する姿が見られ、身近で簡単な単語や対話を聞いて、その意味を理解する力が、少しずつ高まってきた。	より児童の主体性を高め、積極的かつ自主的に授業に取り組む児童を増やしていくことや、活字体で書かれた文字を識別したり、その読み方を身に付ける力を高めていくことが課題である。身近で簡単な単語や会話を、日常生活でも意図的に活用する場面を作り、英会話、英単語に慣れるようにしていく。

②今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の ト 改 善 策	低 学 年	・デジタル教科書やALTの発音から正しい発音を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにする ・英語の母音、子音それぞれの発音（フォニックス）ができるようになるためのチャンツやアクティビティを取り入れる。 ・アクティビティなどをより取り入れ、外国語を話す機会を多く取り入れ、話すことへの意欲を高めていく。 ・ICT機器（タブレット端末）を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本文化をより深く理解し、違点について話し合う活動を取り入れる。
		・簡単な挨拶や身の回りの物を表す外国語を知り、外国語の音声やリズムに触れるようにする。 ・英語特有の音やリズムに慣れ、聞き分けることができるように、チャンツやALTとの会話を取り入れる。 ・簡単な挨拶や質問の外国語のフレーズを練習し、それに対する返しをいくつか練習し、友達に質問する活動を行う。 ・外国語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る活動を積極的に行う。
		・学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して楽しみながら、身に付けることができるようにする。しっかり集中して聞くことを通して、アルファベットに触れる機会を多く設ける。 ・フォニックスを練習できるように、チャンツやALTと会話を取り入れる。 ・自分のことや身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする。 ・教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。
		・活字体で書かれた外国語の文字を識別し、その読み方を発音することができるように練習を繰り返していく。 ・音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように繰り返し練習する。しっかり集中して聞くことを通して、フォニックスを練習できるように、チャンツやALTと会話を取り入れる。 ・大文字、小文字を活字体で書くことができるように繰り返し練習をする。 ・自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるように友達同士、児童とALTでのやり取りを繰り返し練習する。